

民報・原稿「オピニオン」（1月14日締め切り）

## 核兵器廃絶へ、戦後の足跡を継承しつつ新たな飛躍を求めて 「非核の会・京都」による「非核平和施策ポスター運動」の広がり

同志社大学名誉教授  
望田幸男（非核の会・京都）代表

かつて京都市はすばらしい非核自治体宣言を発した。そのポイントを示せば、

- 1 京都市は、非核三原則（作らず、持たず、持ち込ませず）の完全な遵守を求める。
- 2、京都市は、あらゆる国の核兵器の廃絶と軍縮を求める。
- 3、京都市は、核兵器及び核兵器積載の疑いあるものの京都市域への通過、運搬、飛来、貯蔵、滞留を拒否する。
- 4、京都市は、核兵器を生産、配備をさせない。
- 5、京都市は、戦争に協力する事務はおこなわない。

昭和58年3月23日

京都市会

この宣言を読んで、わが京都市はなんと凜然たる、見識ある非核平和の意志を表明したのであるかと思う。だが他方、この京都市が、いまや自衛隊募集のための資料提供を行うまでになっている現実には立つような想いに駆られる。時あたかも市長選挙だ。

さて「非核の会・京都」は、昨秋から府内すべての自治体が積み重ねてきた核兵器禁止・脱原発の非核平和の足跡を再確認するとともに、それらを再活性化し、新たな取り組みを呼び掛ける「非核平和メッセージ」のポスター運動を提唱した。昨年12月未現在で、

ポスター掲示への賛同・協賛は個人では 202 人・645 口、団体は 38 団体・71 口に達した。府下自治体の中でも、この運動は「意義がある」とアンケートで応答の声もあがっている。

この運動と重なり合うように来日したフランシコ・ローマ教皇は「核兵器は犯罪だ」と断じたが、この訴えは新鮮な響きをもって全国に波紋を広げた。京都でも向日市『平和がいいねの会』が、いち早くこれに呼応し、住民各層によるパネルディスカッションを企画したが、パネラーのひとりに原水禁大会参加者の高校 2 年生坂本響君が登場し、注目を浴びた。加えて市内在住の住職・吉村珠道さんもパネラーであったが、実は彼は『平和を歌うスリーピース』のメンバーで、烏打帽に楽器を手に「歌う住職さん」だ。

新たな波動はこれにつぎない。被爆者の証言を世界に広めようと翻訳に取り組んでいる京都外大卒業生・25 歳の阿比留高広君がいる。彼はローマ教皇出席の広島集いに招待され、関連のイベントにも参加している。

私たちの知らないところで、こうした核兵器廃絶にむけて、若者たちの新たな胎動が感得される。私たちは過去の足跡をたどり、そこに再活性化の道をさぐるとともに、新鮮な新たな動きを敏感に感じ取りつつ、来春のニューヨーク集いにむけて、「ヒバクシャ国際署名」の大波を起こそう。